

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、語、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和7年10月31日(金)

みんなの居場所

社会や企業が求める人材

以前、新聞に県内企業の入社式が取り上げられていました。「自ら考え行動を」「学歴より「人間力」という言葉が目立ちました。新入社員に求めることとして「人間力」を挙げてあります。記事をよく読んでみると、新卒者採用で重視するものの1位は「コミュニケーション能力」でした。以下「協調性」「積極性」「チャレンジ精神」「責任感」「誠実性」「柔軟性」と続いています。誠に興味深いですね。と言つのは、学習指導要領で求めることが整合しているからなのです。

府本小学校は学習指導要領が求めることを学校経営に位置付けています。学習指導要領が求めるものとして、「地域の大人など多様な他者と協働する力」「自ら課題に取り組み、最適解を見出す力」「学びや経験を活かす力」「地域を支える力」等が挙げられています。本校ではその実現のために、経営方針の中に具体的に位置付けています。これは、社会や企業が求めている人材育成を府本小学校が積極的にに行っていることなのです。キーワードは「主体性」と「協働性」です。私たち教師にしても然りです。私自身、校長として子ども達や先生方の新しい取組や挑戦に対しては寛容でありたいと考えています。主体的に課題解決、学校をより良くするための挑戦が、府本小学校を更に魅力的なものにしていくのです。これほど楽しいことはありません。保護者の皆様、子ども達の将来は皆様に直接影響を与えることとなります。過保護にならないよう、多くのよいをお子様の主体性に任せてみては如何でしょうか。

経験則③「金銭感覚」

「お買い物」をするのは、私たち大人も童心に帰って何かワクワクするものです。先日「修学旅行」でも、子ども達は大いに盛り上がりました。

さて、昨今の巷を觀察していて気になる場面がありました。子ども達の「お金に対する感覚」です。今の子は「小銭を握りしめて」というシチュエーションは少ないのでしようね。私が子どもの頃、当たり前のカムナク、当時は1個10円だったであろう、1個だけ買って「当たるかなあ…」とドキドキしながら封を切ったものですが、私が経験した場面、例えば、地域や学校におけるお祭り等です。何を買うにも、1個ではなく数個まとめて買う子の姿がありました。財布の中には結構な額のお金が入っています。これを良しとすべきかと頭を抱えてしまいました。私が子どもの頃は、いへらお祭りの日から、バザーだからといって多額のお金を持つことは無く、せいぜいワンコイン(100円)くらいでした。

更に、小学生が友達に誘われるという場面も経験しました。保護者の皆様はどう考えられますか？ お金を稼ぐことの大変さを分かっているのでしょうか。子ども達のこのような行動は私たち大人に、金銭感覚の見直しを迫っているのかも知れません。お金の与え方、これだけのことを考える良い機会です。お金は大切なものです。何れもお金で済ますような風潮は、子どもには特に悪影響を及ぼします。お金の管理はやはり大人がすべきであり、その使い方についてもしっかり教えるべきだと私は思います。

シリーズ「自分を語る」#47

夏休み明けのある日、子ども達と話を聞きました。「ナイトハイクを完歩した人、どんな気持ちでしたか。途中で車に乗った人、今どんな気持ちですか？」ちょっと酷な聞き方だったかも知れませんが、しかし、この話をした時に私は子ども達の反応はすでに想定していました。再挑戦のための「揺るぎない」だったのです。案の定、反応は2つに分かれていました。完歩できなかった子ども達の心情に配慮しながら、完歩した子ども達から目線にならぬ様に「全員が歩き通す」ためのどのような必要かを考えさせました。子ども達からは「もっと体を鍛えないとだめだ」とか、「絶対に車に乗らない」という強い気持ちが必要だ。等の意見が出ました。この時点で、子ども達はまた、再挑戦できるなとは思っています。一般的な意見が出なくなってきた頃、私から「再挑戦の意気があるか？」と聞いたところ、始めはホカンを履いた子ども達でしたが、「もう一度歩きたいです」「いつ歩きたいですか？」と今度は絶対歩き通す。等の声が聞かれるようになりました。実はこの話をすると段階で私には戦略でジョンが描かれていました。保護者の方々からも早い段階からリハビルの要求が出ており、前回よりはるかにモチベーションは高い状況にありましたが、実施する季節的には春、時間的には夜ではなく昼の時間帯なので、比較的計画はしやすいと見ていました。他の先生方や保護者、子ども達と何度も話し合いを持ち、実施は春休みとなりました。卒業式の翌日という凄いいスケジュールです。それでも、子ども達も保護者もやる気満々でした。

再挑戦までに約半年の時間があります。目標達成に向けて、ゆとり確実に活動を開始しました。子ども達が決めた学級のルールを幾つか紹介します。①「平日は雨の日以外毎日朝から運動場100周」…これは当たり前と言ひますが、半年続けるというところに意味があります。継続は力なりと言ひますが、精神的にも強くなる取組です。②「これから先のルールがこの時の子ども達が凄いと云えます。ナイトハイクの時の見せる課題を克服するために設定されたルールです。③「一生懸命やっている人を笑わない、責めない。」「…これは、実際に歩いている時に感じたことなのです。④「どんな仕事でも協力してやり遂げる。」「これも、1人よりも2人、2人よりも3人ということを覚えてきたからだと思います。このような決まりを自分達で設定し、高い熱量で結束を感じながら、早々に時間が過ぎていきます。ナイトハイク再挑戦まで半年、モチベーションが下がらないかと心配していましたが、そんなことは吹く風で、黙々とフツフツと多くの活動に積極的に取り組む私は担任として学級集団のベクトルが同じ方向に向いている時の心地よさを感じていました。当時のことを振り返ると色々なことがスムーズに進み、正に「こんなと拍子」という言葉がぴったりでした。運動会、学習発表会、多くの展覧会、学習のまとめ、フットボール大会はうまくいかなかったのですが…行事や学習の結果を出す子ども達を、私は褒めるだけでした。褒めることで頑張ろうという気持ちになり、少しずつ高みへ上っているのを感じていました。

①「これから卒業式まで、心地良い教育活動が展開されました。」②「へい」